

学会ニュース No.151

2025 年 7 月 31 日 全日本博物館学会事務局
〒150-8440 東京都渋谷区東 4-10-28
國學院大學博物館学研究室内
Tel : 03-5466-0268 E-mail : jimmu(a)museology.jp

*** 目次 ***

2025年度第52回総会・第51回研究大会報告……………1	新刊紹介『地域資源としての企業博物館
2025年度全日本博物館学会賞・奨励賞及び特別賞	観光・文化への貢献の視点から考える』……………10
授与について……………9	委員会議事抄録・会員情報……………12

2025 年度第 52 回総会・第 51 回研究大会報告

日 時：2025年7月5日（土）・6日（日）
会 場：國學院大學渋谷キャンパス及びオンライン
主 催：全日本博物館学会
協賛・協力：國學院大學
参加者：

総 会：184 名（うち委任状 108 名）
研究大会：176 名（両日の参加者合計）
（内訳） 正会員（対面）104 名
正会員（オンライン）48 名
非会員（対面）21 名
非会員（オンライン）3 名

7 月 5 日（土）

《第52回総会》 12：30～13：30

※対面のみの開催。

高田浩二委員の司会進行で進められた。

1. 開会の辞 高田浩二委員
2. 会長挨拶 半田昌之会長
3. 資格審査・総会成立報告 内川隆志副会長
出席者76名、委任状108名を合わせて、規約の成立要件を満たしており、総会が成立している旨の報告があった。
4. 議長選出
鷹野光行正会員を推薦、議長に選出された。
5. 2024年度事業報告 菅野和郎常任委員
6. 2024年度会計報告 菅野和郎常任委員
7. 2024年度監査報告 安田幸世監事

総会資料に基づき報告、承認された。

8. 2025年度事業計画案 菅野和郎常任委員

総会・大会の開催、学会誌・ニュース発行、研究会の開催、学会賞・奨励賞の選考・授与等について総会資料に基づき提案、承認された。

9. 2025年度予算案 菅野和郎常任委員

事業計画に基づく予算案が提案、承認された。

10. その他

11. 全日本博物館学会賞・奨励賞及び特別賞授与式 選考報告 山本哲也常任委員

『博物館学雑誌』第49巻2号、第50巻1号の掲載論文および会員による著書を対象に選考を行った結果、全日本博物館学会賞に佐々木秀彦正会員、全日本博物館学会奨励賞に武井二葉正会員、大木由以正会員の計3名が受賞となった旨報告され、半田昌之会長より各受賞者へ学会賞等が授与された（詳細は9頁をご参照ください）。特別賞は該当者なし。

12. 閉会の辞 高田浩二委員

《第51回研究大会》

7 月 5 日（土） 14:00 ～ 18:20

○研究発表・討論（発表 15 分・質疑応答 5 分）

（1）瀧端真理子（追手門学院大学）

COVID-19期を中心とするV&Aの経営戦略

（2）久保内加菜（鎌倉女子大学）

後期中等教育段階の青少年を対象とした公立美術館の教育事業

（3）村尾優華（東京藝術大学）

絵画鑑賞に五感を取り入れる感性向上効果：絵画と音楽の相互補完

（4）小笠原喜康（日本博物館教育研究所）

ハンズオンその先へ：実験的「意味探求展示」の提案

(5) 福嶋純之（人と防災未来センター）

震災資料のデジタルアーカイブ：人と防災未来センター資料室を例に

(6) 木村文（帯広畜産大学）

脱ロシア化としての博物館展示：リトアニア国立博物館における「甘い（ノメンクラトゥーラの）暮らし（Saldus (nomenklatūros) gyvenimas）」展

(7) 魏雯君（北海道大学）

北海道博物館における外国人来館者の観覧行動と意識変容に関する調査

(8) 江水是仁（東海大学）

博物館来館者の来館前後の行動分析を通して博物館が地域の活力に与える影響

(9) 侯冰倩（北海道大学）

日中両国における文化財保存・修復人材養成教育の発展過程と現状：大学教育を中心に

(10) 邱君妮（国立民族学博物館）

国際研修を通じた博物館におけるDEAI概念の実践可能性：オランダ「論争のある歴史認識について語り合う研修（SSOCH）」の事例から

(11) 武井二葉（明石市立文化博物館）

社会教育調査における博物館類似施設の実態と文化資源としての可能性

(12) 下湯直樹（日本オリンピックミュージアム）

アクセシビリティの高いミュージアムを目指して：日本オリンピックミュージアムでの実践を中心に

7月6日（日）9:00～12:00

(13) 堀江典子（佛教大学）

高速道路等における博物館的機能の現状

(14) 海上尚美（北九州工業高等専門学校）

博物館と地域と学校の協働による「小倉織」普及のための教材開発

(15) 久保田荻須智広（東京藝術大学）

負債化する芸術作品：東京藝術大学大学美術館と東京藝術大学から見る現代美術収蔵問題の構造分析と制作における応答

(16) 田中裕基（明治大学）、伊豆原月絵（日本大学）、安福紘大（岐阜県かがみがはら航空宇宙博物館）
大学キャンパスにおける天体観望会を通じた科学教育と博物館への関心喚起の試み：学芸員養成課程の教員・学生・学芸員による協働の実践

(17) 徳澤啓一（岡山理科大学）

文化観光を支える博物館とその展示：タイ・バンコクとその近郊の事例を中心として

(18) 寺田悠紀（東京大学）

なぜ今、科学技術博物館なのか？：イラン国立科学技術博物館の事例から

(19) 大森麻由子

実践報告：多様性重視をミッションとするシカゴ美術館におけるギャラリーボランティアとはーメトロポリタン美術館でのドーセント経験との比較から

(20) 中谷大輔（長崎市恐竜博物館）

「化石のミカタ展」に見る移動博物館の可能性：長崎市恐竜博物館の実践から

7月6日（日）14:20～18:00

(21) 田中裕二（静岡文化芸術大学）

郷土教育と郷土館の成立：東京郷土資料陳列館から武蔵野郷土館へ

(22) 西源二郎（元 東海大学）

水族館の展示に関する研究：実験行動的展示について

(23) 伊豆原月絵（日本大学）、藤井英（株式会社アートフリース）、藤崎知輝（日本大学）、岡庭拓也（日本大学）

科学館における音環境の変容とその対応策：来館者啓発を目的とした参加型ワークショップの実践と考察

(24) 三木暁了、奥山英登、永石理恵（国立アイヌ民族博物館）

ギャラリートークを通じた働きかけ：文化多様性の尊重と生物多様性の保全について

(25) 大瀧拓実（明治大学）

日本の明治・大正期における「野外博物館」認識の再検討

(26) 田原よし乃（東京大学）

「負の遺産」の提示・継承における複数の立場とミュージアム：ダンカン・キャメロンの議論を手がかりに

(27) 戸田孝、芦谷美奈子、金尾滋史（滋賀県立琵琶湖博物館）

博物館評価に必要な活動記録の保持

(28) 佐藤優香（東京大学）、笹木一義（国立アイヌ民族博物館）、五月女草子（国立民族学博物館）、奥山英登（国立アイヌ民族博物館）

博物館のプログラム開発における考慮：アイヌ文化学習を事例に

(29) 島絵里子（北海道大学）

1998年開催シンポジウム「ユニバーサル・ミュージアムをめざしてー視覚障害者と博物館ー」から27年：博物館の取り組みをたどる

(30) 五月女賢司（大阪国際大学）

ザンビア共和国におけるコミュニティ・ミュージアム

の現在地：地域社会が共に作り上げる“ミュージアム”の可能性

○ポスター発表

(A) 富澤由規子（御船町恐竜博物館）

他者との間接的な対話が及ぼす思考への影響調査：正解のない問いを発端として

(B) 村野正景（静岡大学）、堀内保彦（NPO法人フィールド）

博物館DXの第一歩：カメラ性能比較による資料のデジタル化の検証

(C) 宇仁義和（東京農業大学）、上原嘉宏（日本工業大学）、森田聡美（岡谷蚕糸博物館）

量産品の資料名称：近代模範用品と工業製品

(D) 井上裕太（弘前学院大学）

地域資源としてのスポーツ資料：徳島県阿南市（野球のまち阿南）の事例から考える

(E) 並木美砂子（帝京科学大学）

ふれあいプログラム参加の有無による「動物の状態への関心」の違い

(F) 神辺知加（東京国立博物館）

戦後初の国立の博物館、構想から誕生まで

(G) 佐藤優香（東京大学）、武井二葉（明石市立文化博物館）

博物館人材育成のための研修デザイン：自律したボランティア活動のための学び

(H) 劉高力（北海道大学）

感覚・共感・対話を生む展示空間の構築：南アジア・東南アジアの民族学博物館におけるデジタル化について

(I) 三河内彰子、藤田全基、杉山和正、佐藤敬浩、深堀協子、藤澤敦（東北大学）

文化財・自然史財と新たな学際領域研究、文理融合のカたち：東北大学金属材料研究所「新知創造学際領域形成(学際ハブ)事業」の実践へ

(J) 小瀬戸恵美（国立歴史民俗博物館）

錦絵、絵巻物への視線移動の検証

(K) 卓彦伶、今村信隆、佐々木亨（北海道大学）

社会課題解決に向けた博物館人材育成の実践：「対話」と「寄り添い」を軸にした取り組み

(L) 竹下春奈（明治大学）

「遺跡救済活動」における展覧会の役割

(M) 藤田茂（東京都環境局）

自然史資料の価値創造

(N) 金尾滋史（滋賀県立琵琶湖博物館）

博物館のレファレンス機能を評価するために必要な情報とは？

【附・2025年度総会資料 一部抜粋】

2024年度事業報告

1. 2024年度第51回総会の開催

日 時：2024年6月29日（土）

場 所：北海道開拓の村 ビジターセンター

参加者：52名（委任状133通）

内 容：2023年度事業報告／2023年度決算報告／2023年度監査報告／2024年度・2025年度・2026年度選挙管理委員会報告／2024年度事業計画案／2024年度予算案／全日本博物館学会規約第7条の議事事項（全日本博物館学会副会長の承認及び監事の選出）／全日本博物館学会規約第13条の議事事項（会費改正）／その他議事（全日本博物館学会規約第11条による全日本博物館学会名誉会長の推挙）

2. 2024年度第50回研究大会の開催

日 時：2024年6月29日(土)～30日（日）及び

後日オンデマンド配信（7月17日～31日）

場 所：北海道開拓の村 ビジターセンター

参加者：111名（両日の参加者合計）

内 容：

▼研究発表・討論

(1) *高田浩二、**茅根 創、***丹羽淑博、****嵩倉美帆、*****浅野 亮、*****安田昌則、*****林健太郎（*海と博物館研究所、**東京大学大学院理学系研究科、***国立極地研究所、****笹川平和財団海洋政策研究所、*****気仙沼市教育委員会、*****元大牟田市教育委員会、*****国立科学博物館）
地域の動物飼養や弔いを教材にした生物多様性教育の試み

(2) 金山喜昭（法政大学）

博物館法改正とコレクション管理をめぐる諸問題

(3) 寺農織苑（北海道大学大学院）

解説文を読ませる工夫：展示会図録における新たな博物館体験の在り方

(4) 阿部麟太郎（北海道大学大学院）

「第三世代博物館」とはなんだったのか：学会誌分析における1990年代設立博物館と伊藤寿朗

(5) 森 沙耶（北海道大学大学院）

ハンズ・オン展示における家族間の博物館学習の観察：親から子への支援とプロセスに着目して

(6) 魏 雯君（北海道大学大学院）

博物館における展示利用者への認識の変化及び利用向

上のための取り組みについて：都道府県立歴史系博物館の常設展示を対象として

(7) 島 絵里子(北海道大学大学院)

日本点字図書館附属池田輝子記念ふれる博物館の歩みをたどる：事例研究

(8) 佐藤優香(東京大学)

学校収蔵資料の活用と継承のための展示づくりワークショップ：「問いをつくる」ことを通して深める鑑賞

(9) 木村 文(帯広畜産大学)

ロックダウン時の小規模博物館における教育普及活動：リトアニア共和国ヴィリニュス市の事例

(10) 瀧端真理子(追手門学院大学)

スコットランド国立博物館及びバーミンガム博物館トラストにおける寄附金募集関係求人情報の分析

(11) 戸田 孝(滋賀県立琵琶湖博物館)

総合博物館とは何か：理工系と自然史系の境界領域について考えるために

(12) 中林寿文(サイバース株式会社)

オープンデータを活用した博物館データベースアプリ「Sugoroku.com」のこころみ

(13) 中村千恵(三重県総合博物館)

県立博物館での企業連携活動：三重県総合博物館10年の歩み

(14) 井上 瞳(愛知学院大学)

20世紀初頭のボストン美術館における教育普及：ギルマンと岡倉天心の関わりから

(15) 大高 幸(放送大学)

メディアとしての展示：今夏の『昭和初期の和服柄に宿る戦争』展について

(16) 武井二葉(明石市立文化博物館)

学校教育を支える放送教育と博物館教育：「むかしのくらし展」とNHK for School」

(17) 本間浩一(慶應義塾大学)

民俗資料のメタデータの現状調査：特に、家庭用ミシンを事例として

(18) 宮元正博(池田市立歴史民俗資料館)

民具を利用した子ども向けワークショップの事例

(19) Virtualion株式会社(佐藤 愛)

デジタルアーカイブを活かす、バーチャル空間展示を用いた「メタミュージアム®」の実践

(20) 佐藤 琴(山形大学)

ナスカの地上絵を展示してみた：山形大学ナスカ研究所10周年展

(21) 松本朱実(社会構想大学院大学)

持続可能性に向けた博物館の活動と教育(ESD)の評価

(22) 西 源二郎

水族館の展示に関する研究：最近の展示傾向

(23) 大関絢子(神戸大学大学院)

ロンドンの「マイグレーション・ミュージアム」の展示にみえる女性移住者像

(24) 大内須美子(留萌市海のふるさと館)

博物館におけるエンパワーメント評価

(25) 藤本将人(宮崎大学)

歴史系博物館における社会認識形成論と学社連携の方向性

(26) 鈴木悠希子

インターネット上で公開される博物館教育普及コンテンツ(OEMR)の学校現場における利活用を目的とした「おうちミュージアム参加館一覧」のユーザビリティ調査

(27) 笹木一義*、奥山英登*、シンウォンジ*、三木暁了*、佐藤優香**(*国立アイヌ民族博物館、**東京大学)博物館来館者の、来館者像と展示メッセージ伝達の分析の試行：国立アイヌ民族博物館の来館者アンケートの自由回答分析より

▼オンデマンド発表(後日配信)

(28) 永山可奈子(京都芸術大学大学院)

公立美術館におけるPFI導入に関する一考察

(29) 田川太一(長崎国際大学大学院)

医歯薬学系大学附属博物館に関する一考察

(30) 宗像晋路(早稲田大学大学院)

小学校団体の美術館利用への学校側における消極的要因：元教員の立場から

(31) 田中裕基(多摩六都科学館)

展示解説としてのSNSの活用について：2022年夏企画展「見てみるかい？おくぶかい！貝の世界」より

(32) 伊豆原月絵、奈良崎裕太、藤崎知輝(日本大学)

博物館のワークショップ参加者と保護者へのアンケート結果からみた博物館教育の現状

(33) 藤崎知輝、奈良崎裕太、伊豆原月絵(日本大学)

ワークショップにおける映像解析を用いた教育の工夫と参加者の意識調査について

(34) 小館誓治*、八木 剛**、大平和弘*、辰村 絢**、河田麻美**、半田久美子**(*兵庫県立人と自然の博物館/兵庫県立大学、**兵庫県立人と自然の博物館)自然系博物館における未就学児への環境学習の支援：「ひょうごエコロコプロジェクト」におけるプログラム実施園の保護者に対するアンケート調査結果

▼ポスター発表

(A) *内田 登、*竹内健二、*蝦名慶樹、*坂倉瑤

子、**大久保尚紀（*光ミュージアム、**日本大学）
NFC（近距離無線通信技術）を用いた低コスト音声ガイドの内製化の勧め

（B）奥本素子（北海道大学）

新カリキュラム「総合的探究の時間」を活用した博学連携の取り組み

（C）五月女賢司（大阪国際大学）

「機能」から「役割」へと変化する博物館の意義

（D）*佐藤優香、**伊永陽子、**横川公子（*東京大学、**武庫川女子大学附属総合ミュージアム）

近代学校博物館における「中古装束人形」の収蔵と展示

（E）朱 麗梅（北海道大学大学院）

住民参加の自治体史編纂における地域博物館の役割

（F）宇仁義和（東京農業大学）

「民俗資料」の分けと資料名称：生産者数と製造数に注目して

（G）江口佳穂（北海道大学大学院）

コロナ禍のオンライン活動における成果と課題：うちミュージアム参加館を対象として

（H）*卓 彦伶、**宇仁義和（*北海道大学、**東京農業大学）

台湾の博物館法と専門職員の現状

（I）*長谷川暢子、**横山佐紀（*国立西洋美術館、**中央大学）

ろう学校を対象とした手話による対話型ギャラリートークの実践と課題

3. 博物館学雑誌の発行

第50巻第1号の編集と発行

第50巻第2号の編集と発行

4. 学会ニュースの発行

No.148 2024年10月31日発行

No.149 2025年1月31日発行

No.150 2025年4月30日発行

5. 研究会の開催 計3回開催

第1回研究会

テーマ：昭和のくらし博物館開館25周年記念トーク

主 催：全日本博物館学会、昭和のくらし博物館

日 時：2024年10月27日（日）13：30～16：30

会 場：昭和のくらし博物館

参加者：80名

第2回研究会

テーマ：講演会「博物館と福祉—博物館での福祉的実

践を読み解く」

主 催：全日本博物館学会

日 時：2025年2月9日（日）19：00～20：30

会 場：オンライン

参加者：70名

第3回研究会

テーマ：シンポジウム「大学が博物館を持つ意義—大学における附属博物館の役割を改めて考える」

主 催：全日本博物館学会、大学博物館シンポジウム実行委員会

日 時：2025年3月6日（日）13：00～16：00

会 場：東京国立博物館黒田記念館及びオンライン

参加者：111名（対面39名・オンライン72名）

6. 全日本博物館学会創立50周年記念事業

全日本博物館学会創立五〇周年誌の編集と発行

7. 委員会等の開催

① 全日本博物館学会委員会 計7回開催

第1回定例委員会：2024年6月29日（土）、対面による開催、総会事項、各委員会の担当及び活動について等

第2回定例委員会：2024年8月6日（火）、ZOOMによる開催、内規等改正について等

常任委員会：2024年9月17日（火）、対面による開催

日本民具学会声明文への対応について

第3回定例委員会：2024年12月10日（火）、ZOOMによる開催、内規等改正、次年度研究大会について等

第4回定例委員会：2025年3月10日（月）、ZOOMによる開催、次年度研究大会について等

第5回定例委員会：2025年5月20日（火）、ZOOMによる開催、次年度研究大会について等

第6回定例委員会：2025年7月5日（土）、対面による開催、総会事項、次年度の活動について等

② 全日本博物館学会選考委員会

2025年6月26日（木）に対面開催、全日本博物館学会賞及び奨励賞を決定し、2025年度第52回総会にて授与

③ 博物館学雑誌・学会ニュース編集委員会

メールでの協議

④ 全日本博物館学会創立五〇周年記念事業実行委員会

メールでの協議

8. その他

<事業共催>

なし

<事業後援>

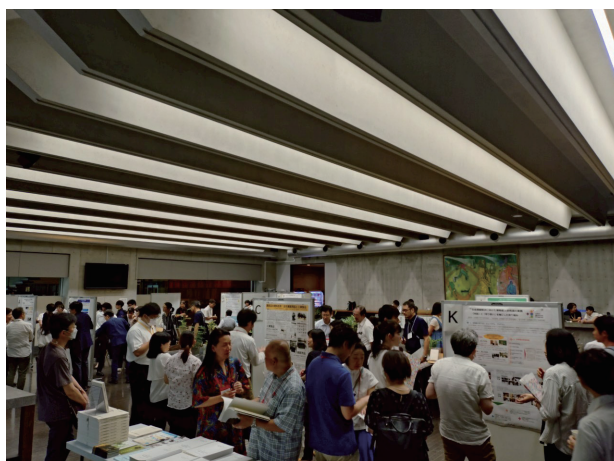
- ・第13回小さいとこサミットin東京
主 催：小規模ミュージアムネットワーク（小さいとこネット）
開催日：2024年9月13日（金）～14日（土）
会 場：東京農工大学科学博物館
- ・シンポジウム 何のための博物館学？一岐路に立つ博物館・求められる未来像
主 催：これからの博物館のあり方を考える会
共 催：國學院大學博物館、株式会社雄山閣
開催日：2024年10月6日（日）
会 場：國學院大學渋谷キャンパス
- ・第10回公害資料館連携フォーラムin東京
主 催：公害資料館ネットワーク／第10回公害資料館連携フォーラムin東京実行委員会
開催日：2024年12月15日（日）
会 場：立教大学池袋キャンパス
- ・2024年度「展示学講座」
主 催：日本展示学会
開催日：2025年2月22日（土）～23日（日）
会 場：東京国立博物館黒田記念館
- ・第5回小さいとこ nano-Online
主 催：小規模ミュージアムネットワーク、八尾市立しおんじやま古墳学習館
開催日：2025年3月22日（土）
会 場：オンライン

2025年度事業計画

1. 総会の開催
第52回総会 2025年7月5日（土）
國學院大學渋谷キャンパス（対面）
2. 研究大会の開催
第51回研究大会 2025年7月5日（土）・6日（日）
國學院大學渋谷キャンパス（ハイブリッド）
3. 博物館学雑誌の発行
第51巻第1号・第51巻第2号の編集と発行
4. 学会ニュースの発行
年4回程度発行
5. 研究会の開催
年4回程度開催
6. 全日本博物館学会賞・奨励賞及び特別賞の選考・授与
選考委員会 2025年度末～2026年度初頭に開催
第53回総会授与
7. 委員会の開催
定例委員会 年6回開催
臨時委員会 随時開催
8. その他
全日本博物館学会編『博物館の疑問50』（成山堂書店）の出版



第 52 回総会 風景



第 51 回研究大会 ポスター発表風景

2024年度会計報告

A.一般会計

【収入の部】

費目	予算額	決算額	差異	摘要
年会費	3,100,000	2,075,000	▲ 1,025,000	
入会金		57,000	▲ 985,000	新入会34件（3,000円×19件）＋（学生入会金免除15件）
正会員年会費	2,880,000	1,838,000		301件（6,000円×285件／8,000円×16件） ※前年度滞納分及び2025年度年会費納入含む
賛助会員年会費	220,000	180,000		一口20,000円×9件
雑収入	200,000	641,500	441,500	
雑誌売上 （バックナンバー）		3,000	441,500	1冊（3000円×1件）
雑誌売上 （定期購読）	200,000	378,000		126冊（3,000円×126件）
その他（臨時収入）		260,500		大会参加費（オンデマンド視聴費含む）
預金利息	500	1,417	917	
小計	3,300,500	2,717,917	▲ 582,583	
前年度繰越金（前年決算額）	1,868,895	1,868,895	0	
合計	5,169,395	4,586,812	▲ 582,583	

（単位：円 ▲＝収入不足）

【支出の部】

費目	予算額	決算額	差異	摘要
人件費	540,000	530,230	9,770	
幹事手当	480,000	480,000	0	40,000×12ヶ月
臨時雇人給与	60,000	50,230	9,770	発送アルバイト等
事務費	715,000	669,195	45,805	
交通費	200,000	76,900	123,100	幹事等交通費
消耗品費	60,000	32,249	27,751	文房具、発送ラベル、封筒、封筒印刷費等
備品費	0	0	0	
通信費	450,000	554,491	▲ 104,491	雑誌・ニュース発送、諸通知等
雑費	5,000	5,555	▲ 555	振込手数料等
事業費	2,710,000	2,214,814	495,186	
委員会費	50,000	28,056	21,944	委員会開催経費（ZOOM等）
大会費	300,000	470,471	▲ 170,471	大会開催経費
50周年事業費	400,000	349,200	50,800	創立50周年誌編集・印刷経費
研究会費	200,000	47,940	152,060	研究会開催経費
印刷費	1,700,000	1,264,345	435,655	雑誌（50巻1号・2号）・ニュース（No.148～150）等
HP運営費	60,000	54,802	5,198	HP維持管理経費、事務局メール運営費
表彰費	50,000	50,000	0	
慶弔費	20,000	0	20,000	
予備費	1,134,395	0	1,134,395	
合計	5,169,395	3,464,239	1,705,156	

（単位：円 ▲＝支出超過）

【次年度繰越】

一般会計	（収入）	（支出）	（残高）
	4,586,812	－ 3,464,239	＝ 1,122,573

監査の結果、適正に処理されていると認めます。

令和 7年 7月 1日

保管状況（令和5年4月30日現在）

銀行口座（三菱UFJ銀行）	978,321
郵便振替口座	0
郵便貯金口座	128,568
現金	15,684
合計	1,122,573

西村 功志

安田 幸世



2025年度予算

A.一般会計

【収入の部】

費目	2025年度予算額	2024年度予算額	差異	摘要
年会費	4,200,000	3,040,000	1,160,000	
入会金				新入会20件（3,000円×20件） 前年度実績より
正会員年会費	3,900,000	2,820,000	1,080,000	480件（8,000円×480件） 前年度実績より（※今年度より会費改訂）
賛助会員年会費	300,000	220,000	80,000	一口30,000円×10件 前年度実績より（※今年度より会費改訂）
雑収入	200,000	200,000	0	
雑誌売上 （バックナンバー）				
雑誌売上 （定期購読）	200,000	200,000	0	バックナンバー販売、定期購読 他
その他				
預金利息	1,500	500	1,000	前年度実績より
小計	4,401,500	3,240,500	1,161,000	
前年度繰越金(前年決算額)	1,122,573	1,868,895	▲ 746,322	
合計	5,524,073	5,109,395	414,678	

（単位:円 ▲＝収入減）

【支出の部】

費目	2025年度予算額	2024年度予算額	差異	摘要
人件費	580,000	540,000	40,000	
幹事手当	480,000	480,000	0	＼40,000×12ヶ月
臨時雇人給	100,000	60,000	40,000	
事務費	940,000	715,000	225,000	
交通費	200,000	200,000	0	幹事等交通費
消耗品費	80,000	60,000	20,000	文房具、発送ラベル、封筒、封筒印刷費等
備品費	0	0	0	
通信費	650,000	450,000	200,000	雑誌・ニュース発送、諸通知等発送
雑費	10,000	5,000	5,000	振込手数料等
事業費	3,710,000	2,710,000	1,000,000	
委員会費	50,000	50,000	0	委員会開催経費(ZOOM等)
大会費	500,000	300,000	200,000	総会及び大会開催経費
50周年事業費	200,000	400,000	▲ 200,000	創立50周年誌発送費
研究会費	300,000	200,000	100,000	研究会開催経費
印刷費	2,000,000	1,700,000	300,000	雑誌(51巻1号・2号)・ニュース(No.151～154)等
会員管理システム導入費	600,000	0	600,000	会員管理・会計管理システム導入等
HP運営費	60,000	60,000	0	HP維持管理費
表彰費	80,000	50,000	30,000	学会賞及び奨励賞副賞
慶弔費	20,000	20,000	0	
予備費	194,073	1,134,395	▲ 940,322	
合計	5,524,073	5,169,395	354,678	

（単位:円 ▲＝支出削減）

2025年度全日本博物館学会賞・奨励賞及び特別賞授与について

2025年度全日本博物館学会賞・奨励賞及び特別賞授与式は、2025年7月5日に國學院大學渋谷キャンパスにて開催の2025年度第52回総会において挙行されました。日本の博物館学研究に多大な貢献をするものとして佐々木秀彦正会員へ2025年度全日本博物館学会賞及び副賞、日本の博物館学研究の発展が更に期待できるものとして武井二葉正会員、大木由以正会員へ2025年度全日本博物館学会奨励賞及び副賞が、半田昌之会長より授与されました。受賞対象となった著作は、下記の通り。

2025年度 全日本博物館学会賞

佐々木 秀彦『文化的コモンズ—文化施設がつくる交響圏』（みすず書房・2024年3月31日発行）

2025年度 全日本博物館学会奨励賞

武井 二葉「近代博物館における非利用者と博物館の関係—博物館コミュニティの形成原理と社会的包摂のための試論」『博物館学雑誌』第50巻第1号 所収（2024年12月25日発行）

大木 由以『公立美術館における学芸員の専門性—一人から考える博物館教育』（樹村房・2024年2月20日発行）



佐々木氏へ学会賞授与



武井氏へ奨励賞授与



大木氏へ奨励賞授与



左から佐々木氏、半田会長、武井氏、大木氏

新刊紹介『地域資源としての企業博物館
観光・文化への貢献の視点から考える』



現在日本には、数百と言われる企業博物館が存在するとされ、その中にはユニークなテーマや視点で興味深い活動を展開している博物館も多い。こうした企業博物館が所蔵する資料や情報を地域資源と捉え、地域の観光や文化への貢献のあり方を論じた興味深い著書が上梓された。

2022年に改正された博物館法では、従来の社会教育施設としての役割に文化芸術基本法との関連が明示されたこと、また登録博物館として認められるための申請要件が大幅に緩和されたことなどが改正のポイントとして挙げられている。

この改正によって博物館は、社会教育施設であることはもとより、文化施設としても地域の文化交流の拠点的な役割を期待されることとなった。こうした流れのなかで、営利組織である株式会社等が設置運営する博物館にも、登録博物館として法律的位置付けを得る道が開かれた。その背景には、旧法での登録博物館の資格要件が、土地建物や施設などの外形的な基準にウエイトがかかっていたことや、公立博物館でも教育委員会が設置者の博

物館でなければ登録申請ができなかったこと、同様に元々は企業が実質的な設置者であっても形式的には財団法人等が運営している博物館でなければ登録申請ができないという課題があった。今回の法改正では、国立や独立行政法人の博物館は残念ながら登録対象にならなかったが、公立・私立の博物館は、設置者の行政所管や法人類型に関わらず、それぞれの博物館の定性的な運営状況に基づいて登録審査がなされることとなった。改正法が施行された2023年度からの2カ年度で、株式会社が設置した博物館が登録を申請し承認された数は13施設にのぼる。

その一方で、本来営利追求を目的とする株式会社が設置する博物館を登録博物館の対象とすること自体への批判的意見があることも否めない。私自身、永らく企業博物館で学芸員を経験してきた身として、企業の経営方針に直接影響を受けやすい企業博物館が持続的な運営基盤を整備することは容易なことではなく、批判的な懸念にも理解できる点はある。今後、登録制度が運用される過程で、より実質的で厳格な審査の積み上げがなされるなかで制度の検証が求められている。

こうした状況であるからこそ、企業博物館が注目を集め、今後、博物館全体の中で特色ある博物館として発展していくためには、その経営基盤から地域との連携のあり方等、広い視野を持つ博物館学的調査研究の充実が期待されている。本書は、そのための研究課題に対して興味深い調査と研究成果を踏まえ、今後の企業博物館のあり方に著者としての方向性を示している点において、その刊行に大きな意義がある。特に、所在地域と企業との関係から博物館が誕生する要因と背景を整理した上で、博物館に蓄積されていく企業史から製造物に関する歴史資料や実物、製造技術等に関する施設や関連資料など、多様な企業の産業史的資料や情報を、企業や博物館だけの持ち物としてではなく、所在する地域の地域資源として捉え、その資源の保存と活用を核として、企業博物館の博物館としての機能を、地域との連携、地域への貢献という視点で論じた点は、従来の企業博物館研究との比較においても新鮮な視点を提供している。

こうした企業博物館と地域に対する博物館学的なアプローチの素地は、著者の佐藤友美氏自身が、新聞社の文化事業部での展覧会企画運営から、企業直営で規模の大きな博物館施設であるトヨタ博物館に勤務した実績を踏まえ、名古屋を中心とする地域のアーツカウンシル的な中間支援組織での経験と、大学での継続的な調査研究を続けるキャリアを背景に形成され、その成果が本書に魅力を与えているように感じる。

第Ⅰ部の「観光資源・文化資源の拡張と産業」では、企業博物館に関する先行研究のみならず、博物館法をはじめとする法律やその背景にある国の基本的政策の変遷を丁寧に整理しつつ、博物館と観光の関係性、特に博物館の観光への貢献期待が、今回の博物館法改正によって初めて顕在化したわけではないことを確認する。その上で戦後の博物館を取り巻く地域的環境において、観光と博物館の機能には深い関わりがあり、多くの企業博物館の歴史的歩みにみる企業と地域の連携のあり方に、地域の観光振興に向けたそれぞれの思惑が反映していることを明示している。

こうした、地域企業と地域の観光振興という企業と地域の共通認識を契機として作られた企業博物館の多い中で、著者は、博物館に蓄積されていく資料や情報が地域資源化していくプロセスを、トヨタが展開する複数の博物館や関連施設を例に解き明かす。そこでは、高度経済成長期を経た企業と社会の関係性における産業遺産の観光価値化と博物館誕生という外見上の流れだけでなく、企業と社会の関係における社会的責任に対する市民意識の変化が、企業に社会貢献活動の重要性を認識させ、企業博物館の運営方針に反映されながら、地域との連携を強め進化させていくプロセスが検証されている。

また、第2章－2の「未完の産業技術博物館構想」は、かつて私もその顛末を調べた経験のある残念なテーマだが、改めて詳細に振り返ることができ大変興味深かった。大阪府に構想された「国立産業技術史博物館」は、梅棹忠夫や京都大学の吉田光邦らが中心となって計画された初の国立の産業技術史に関する博物館構想で、1970年の日本万国博覧会の跡地を活用する方向で、大阪府の支援もありそれなりの進展を見たが、国が提案した運営形態の課題や吉田の急逝によって計画は頓挫し、結局2009年に収集した2万点を超す資料の多くが「破棄」される痛恨の結末を迎えた。吉田先生がその重要性を熱く話された時のことを鮮明に思い出した。そのほかに紹介されている、愛知県の「産業技術博物館」や「産業技術と歴史を語る懇談会」にみる産業技術系の博物館設立の取り組みは、企業博物館と観光・文化との関わりにフォーカスした本書に、副線として、企業博物館に蓄積されている日本の近代化を支えた産業技術史資料の価値が、国等の政策の変化の中で移ろい易いものである一方で、その普遍的な文化資源としての価値を想起させているように思える。

第Ⅱ部の「企業博物館の観光資源化プロセス」では、第Ⅰ部で整理された博物館と観光政策との時代的変遷や国の文化政策における企業博物館の役割とその観光資源

としての活用について、著者の実践的調査の主要フィールドでの調査研究の成果を基に、企業博物館が地域自治体の観光政策との連携の下に、いかにして地域の観光資源として機能するようになるか、その過程と、自治体・博物館それぞれの思惑、成果と課題が示されている。

愛知県については、著者が勤務したトヨタ博物館をはじめとする、全国トップの製造産業のメッカとして、2006年に名古屋商工会議所を核に発足した産業観光推進懇談会（AMIC）を中心とする産業観光政策の推進とネットワーク化の流れとともに、AMICと国、県、県内自治体との連携の形を明らかにしつつ、それぞれの地域に立地する企業博物館や産業遺産の役割や機能が示されている。

県下の自治体の具体的な事例として紹介されている、半田市とMIZKAN MUSEUMとの連携等も、自治体と企業博物館それぞれの考えと方針がよく理解できる。また、第5章で紹介されている「北九州ミュージアムパーク創造事業地域計画」では、同計画において有用な文化資源として位置付けられている、わかちく史料館、ニッスイパイオニア館などの企業博物館の調査を踏まえ、中核施設としての北九州市立自然史・歴史博物館や北九州市の関連組織との連携、歴史的背景、政策の要点等が整理され、地域ぐるみの観光政策における企業博物館の役割が浮き彫りにされている。

本書は、地域に根ざし企業活動を基礎に誕生した企業博物館が、その豊かな産業史に関する資料を、地域全体の未来を考えるための「地域資源」として再評価することから、新たな企業博物館の可能性を示す好著であり、企業博物館と地域の新たな連携と相互補完的関係の充実に向けた、著者の更なる研究の進展を期待している。

（半田昌之 日本博物館協会）

【書誌情報】

『地域資源としての企業博物館 観光・文化への貢献の視点から考える』

著 者：佐藤 友美

出版社：晃洋書房

仕 様：四六判、227 頁

定 価：本体 4,400 円＋税

発行日：2025 年 4 月 30 日

ISBN：978-4-7710-3925-4

委員会議事抄録

【2024年度 第5回定例委員会】

2025年5月20日：オンライン（ZOOM）

出席者：半田、内川、芦谷、粕谷、金山、菅野、栗原、島、下湯、高田、並木、持田、山本

委任欠席：佐藤、五月女、高橋

議 事（議長：半田会長）

(1) 全日本博物館学会運営規程第10条の審議事項

2年以上にわたる会費滞納につき、指定の期日までに未納の会費を納入せず、及び進退の意思表示を行わなかった会員は、全日本博物館学会運営規程第10条の規定により退会させることとした。

(2) 2024年度刊行物発行の遅延について

『博物館学雑誌』第50巻第2号及び『全日本博物館学会創立五〇周年誌』の刊行が遅れているため、印刷費は2025年度に繰越執行することとした。

(3) 2025年度第51回研究大会研究発表の審議事項

第51回研究大会研究発表について審議、決定した。

(4) その他

正会員の入退会について報告、2025年度の業務について共有があった。

【2024年度 第6回・2025年度 第1回定例委員会】

2025年7月5日：対面（國學院大學）

出席者：半田、内川、粕谷、金山、菅野、佐藤、下湯、高田、高橋、山本

委任欠席：芦谷、栗原、五月女、島、並木、持田

議 事（議長：半田会長）

(1) 第52回総会資料に関する事項

第52回総会資料について確認した。

(2) 第52回総会・第51回研究大会に関する事項

第52回総会・第51回研究大会の出席者事項、運営事項、進行等について確認した。

(3) その他

正会員の入退会及び賛助会員の入会について報告があった。

会員情報

入会者（正会員12名・2025年7月時点）

市川優太	王 輝鎔	大澤夏美
大森麻由子	小原 太	富田幸祐
橋口里菜	久松優菜	藤野由紀
三木暁了	劉 高力	山崎陽斗

入会者（賛助会員1団体・2025年7月時点）

ナカシャクリエイテブ株式会社

退会者（正会員12名・2024年9月現在）

池辺 靖	大内須美子	古池晋禄
繁宮悠介	下山 諒	寺門臨太郎
登川幸生	西村美保	福井 彰
牧野久実	渡辺友美	渡邊美環

会員数（2025年7月現在）

一般会員（学生会員を含む）	477 名
賛助会員	11 団体

お願い 年会費の納入について

2025年度会費をご納入いただいていない方は、①・②いずれかの口座まで8,000円をご入金ください。本学会の円滑な運営に、何卒ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

①郵便振替 00170-4-26144（加入者名：全日本博物館学会）

②三菱UFJ銀行 池袋支店 普通預金：1304291（口座名義：全日本博物館学会）